

研究分野のキーワード：道徳的嫌悪，感情複雑性，感情の機能，向社会的行動

研究紹介

「心理学」の一般的なイメージとして、「(自分の目の前にいる)人の、(今の)気持ちや考えていることが分かるようになる」というものがあるようです。

しかし、学問としての心理学のよくある定義は、「心理学とは、行動と心理的過程についての科学的な、あるいは、実証的な研究」というものです。つまり、「今の気持ち」「今考えていること」という、今現在の心の中身というよりも、心の働きやプロセス、構造や仕組みを、データに基づいて検証していく学問なのです。

私の主な研究テーマは、感情の理解や社会性の発達です。といっても、「嘘を言っているときの仕草はどのようなものか」「人に好かれるにはどうしたらいいか」というような研究ではありません。感情に関する知識（どういうことをしたら人は嫌な気持ちになったり怒ったり、喜んだりするのか）や、他人に嫌な思いをさせたときにとる行動に関する知識について、簡単なお話を聞いてもらったときの反応やインタビュー、アンケートを通して調べています。そして、より望ましい行動が生じやすくなる条件、あるいは、そうした行動が妨害されるような条件を見つけようとしています。

また、普段経験する感情のバリエーションや、単純に快-不快と大きくまとめて捉えているか、ネガティブな（あるいはポジティブな）感情とまとめられるとしても、個々の感情は質の異なる感情であるというように、細かく分けて捉えているかといった個人差にも興味があります。このような感情の複雑性における個人差が、感情のコントロールや自己理解に与える影響を調べています。

こうした研究を通して、感情が日常生活や人間関係の中でどのような役割を果たしているかを明らかにしていきたいと考えています。